# ２０２５年度一般入学試験（前期日程）
# 各科目の出題の意図

## 英　語

（国際教養学科・英語英文学科）

標準的な文法・語彙・語法の知識と、それを駆使して長文を読み解く力を問います。長文読解問題Ⅰでは、内容一致文や同意語句を選択することで、本文を正確に、かつ効率よく読み解く力を問います。長文読解問題Ⅱでは、空所に適する語を選択することで、文法・語彙・語法の知識をもとに、本文の内容をつかむ力を問います。文法・語彙・語法問題Ⅲでは、短文の空所に適する語を選択することで、文法・語彙・語法の知識の定着度を問います。会話長文問題Ⅳでは、空所に適する語を選択することで、会話の自然な流れを理解する力を問います。

（上記以外の学科）

標準的な文法・語彙・語法の知識と、それを駆使して長文を読み解く力を問います。長文読解問題Ⅰでは、内容一致文や同意語句を選択することで、本文を正確に、かつ効率よく読み解く力を問います。長文読解問題Ⅱでは、空所に適する語を選択することで、文法・語彙・語法の知識をもとに、本文の内容をつかむ力を問います。文法・語彙・語法問題Ⅲでは、短文の空所に適する語を選択することで、文法・語彙・語法の知識の定着度を問います。

## 国　語

語彙力・基礎的な知識事項と文章読解力を問うことで、国語に関する力を総合的に評価することをねらいとします。大問一では、漢字・語句・慣用表現など、文章読解の土台となる語彙力を評価します。大問二の論理的文章では、筆者の主張・論拠・論理展開を本文に基づいて読み取ることができているか、論理的思考力を評価します。大問三（・四）は受験する学科により選択する問題が異なります。古文の場合、古典文法・語彙・古典常識を踏まえつつ、登場人物の心情や行動、物語の主題を正確に読み取る力を評価します。現代文の場合、大問二より短めの文章を二題出題し、さまざまなジャンルについて短時間で正確に読み取り、論理構成や要点を把握する力を評価します。

## 数　学

（医療薬学科）

数学Ⅰ・A（「数学と人間の活動」は除く）・Ⅱ・B（数列）・C（ベクトル）の範囲からの出題で、4 大問で構成されています。基本的な知識力・理解力、それを応用する力や考察力を測定する内容を出題しています。第 1 問は数学Ⅰ・A の範囲での小問集合、第 2 問は数学Ⅱ・B・C の範囲での小問集合となっています。いずれも分野の基本的な知識・理解と計算力を問います。第 3 問、第 4 問は誘導形式の大問となっています。第 3 問は図形と方程式、第 4 問は微分法と積分法を出題しています。いずれも、必要な定理・公式を利用する力、前半で求めた答えをヒントにして後半の設問を解く力、考察力に加え時間内で解答する正確な計算力を問うています。

（上記以外の学科）
数学Ⅰ・A（「数学と人間の活動」は除く）の範囲からの出題で、4 大問で構成されています。基本的な知識力・理解力と、それを応用する力を測定する内容を出題しています。第 1 問、第 2 問は小問集合となっており、数学Ⅰ・A からまんべんなく出題されています。分野の基本的な知識・理解と計算力を問います。第 3 問、第 4 問は誘導形式の大問となっています。第 3 問は図形の分野に関する問題、第 4 問は 2 次関数を出題しています。いずれも、必要な定理・公式を利用する力、問題文を的確に把握する力、前半で求めた答えをヒントにして効率よく解答する力を問います。

## 化　学

化学基礎および化学（高分子を除く）の範囲から、基本的内容を中心にしつつ、後半では思考力を問う問題を出題しています。第1問は小問集合形式で、基礎用語、公式の活用、物質の名称や性質などの基礎的な内容の理解を幅広く問います。第2問～第4問はリード文を設けて一つのテーマで複数の設問を出題する形式で、基礎的な内容に加え、標準レベルの知識、計算力、思考力を問う問題を出題しています。設問数は 25 問程度で、選択肢4～8個から選ぶ方式です。

## 生　物

生物基礎・生物で学習する基本的な知識事項を土台に、原理・しくみの深い理解や、図・表・実験条件の読み取り、定量的な推定・計算、論理的な判断・表現を総合的に評価します。大問1では、生物基礎の学習項目を中心に、網羅的に理解を問います。大問2～4では、特定の分野のテーマに関する体系的な理解を評価します。知識事項の正確な理解に加え、知識事項や概念を適切に活用する力のほか、情報を抽出し因果関係を把握する力や、複数の情報を組み合わせて論理的に考察する力も評価します。

## 日本史

日本史探究で学ぶ教科書レベルの基本事項を土台に、年代整序・因果関係・地理的関連を整理して歴史的事象を文脈の中で理解する力を総合的に評価します。また、日本史の学習成果を通して、現在及びこれからの社会のあり方を理解し、創造していくために必要な基礎的・歴史的な知識と技能、そこから歴史像を構築するための理解力・判断力、さらに持続的に歴史を主体的に学んでいくための姿勢や関心を醸成していくことを出題の意図としています。大問1では、横断的な視点から複数分野を関連付け、基礎事項のつながりを把握する力を評価します。大問2～4では、時代順に主要分野を取り上げ、政治・社会・経済・文化の基礎事項を確実に理解し、歴史の流れを捉える力を評価します。また、一部の設問は、年表・地図などの資料を用いた読み取りを含め、適切な判断ができるかを問う内容となっています。

## 世界史

世界史探究で学ぶ教科書レベルの基本事項を土台に、歴史の「タテの流れ」（通史）と「ヨコのつながり」（同時代史）を多角的に捉え、歴史的事象を文脈の中で理解する力を総合的に評価します。大問は、主に通史やテーマ史を切り口に設定しています。出題は古代から現代まで、欧米史・中国史を中心にしつつ周辺地域にも及びます。政治・国際関係史を軸に文化史や社会経済史も取り上げることで、時代・地域・分野に偏りのない知識

の定着度を測ります。また、年表や地図を用いた設問を重視し、歴史的事象と地理的認識とを結びつけて考察する力を問います。

## 公共、政治・経済

「公共、政治・経済」では、大問1で「政治（国内政治、国際政治）」、大問2で「経済（国内経済、国際経済）」、大問3で「倫理」の分野から出題し、空欄補充選択や文章選択などの出題形式で、高校の学習範囲が正確に理解できているかを問う内容となっています。概念や原理、原則などの事項について具体的な事例や制度、法律などと関連づけて把握できているか、また、統計資料などについて読解力があるか、時事的な事項について理解できているかなどが求められる内容となっています。